

石心会BULLETIN～季刊

海燕

うみつばめ

第 3 4 号

2007. 7. 28

発行人／石井 暎禧
編集長／辻田 征男
副編集長／高本 哲男

石心会グループ

医療法人財団 石 心 会
医療法人社団 光 和 会
社会福祉法人 石心福祉会
医療法人社団 新 緑 会

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580ソリッドスクエア東館 4F
TEL : 044-511-2266(代) FAX : 044-540-1135
<http://www.sekishinkai.or.jp>

逃げない 救急医療は地域病院の医師の義務

理事長 石井 暎禧

医療の問題は、患者さんの感覚と病院・医師の感覚とでは、大きな隔たりがあります。ベッドが一杯。ICUが一杯。自分の専門でない。自信がない。疲れている。患者の要求が合理的でない。無理な要望に応えたくない。トラブルがいや。

いずれも医師個人の立場でみればもっともです。しかし、これらの理由は、患者さんにとっては、救急を断られる理由として、納得できないことです。あなたの家族だったらと考えてみてください。いずれも病院の言い分に対し反論可能と思うでしょう。「とにかく心配、診て欲しい」。これにどう答えるかです。現状では、どこの病院でも万全の診療態勢などありません。夜中に家族として病院を探してみれば、よく分かります。

医師免許証を持っている以上、専門診療科でなくとも、素人よりはマシでしょう。医師や病院の能力以上のことは、出来ないのはあたりまえで、それが非難された時は、病院はその職員を全力で守ります。

しかし、まず診るといことがなくては始まりません。

いま医療崩壊が叫ばれていますが、中心的課題は、救急医療の確保です昨今は公的病院も補助金の削減の中で、各病院とも、救急を重視することで、住民にアピールし生き残りを模索しています。その戦いの中で、我々が立ち遅れてはなりません。特に川崎の場合、新病院移転を成功させるのは、救急機能の充実が中心課題です。これを基礎にして初めて、住民の信頼を得ることが出来るし、専門診療科を強化する基盤が出来ます。我々が目指している社会医療法人も、「公益性」を求められますがその場合も救急が基本要件です。

※注：「社会医療法人」とは、国が、公益性を持つ医療法人の形態として進めているもので、都道府県の地域医療計画策定に当たり、公的病院と対等な扱いをするというもので、税の軽減をはかり、その点でも公的病院と対等性を持たせるといもの。

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》（1901）に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

（編集部によるダイジェスト）



意気込みは世界に向けて

川崎幸病院大動脈疾患治療ユニット完成

川崎幸病院・大動脈センターACU主任 田中 亜由美

2007年4月1日、川崎幸病院・大動脈センターACU (Aortic Care Unite: 大動脈疾患治療室) を開設しました。ACUは主に大動脈瘤・大動脈解離手術の周術期管理を専門に行うユニットです。ACU誕生以前の患者さんは、術前は一般病棟、術後数日はICUからHCUに滞在、それ以降は一般病棟を移動するという術後管理を受けていました。ACU誕生後は、術前も含めた周術期を、同一看護チームが管理する画期的なシステムが実現しました。

具体的には、初診外来を「さいわい鹿島田クリニック」で受けた患者さんは、手術2日前に川崎幸病院ACUに入院します。手術前日に冠動脈造影検査を行い、術当日はACUから手術室へ入室、術後ACUに帰室します。ACUでは2週間の術後管理を行い、その間、CE・PT・ST・検査科・放射線科・栄養科・薬剤科が深く関わります。術後2週間程でADLもほぼ問題なくなりますが、日常生活をより安定したものにするために「川崎幸病院・中原分院」に転院し、退院まで更に2週間程度、リハビリテーションに専念していただいています。



ACU内にて撮影：田中主任（前列中央）

ACU開設にあたっては、大動脈医療を専門に行うチーム（医師・看護師による合同チーム）であることを基本理念とし、院内からはICU、心臓血管外科病棟、循環器科病棟等から看護師の有志が集まり、また、院外からは中頭病院（沖縄県）、東邦大学、札幌医科大学、信州大学などから大動脈疾患看護のスペシャリストを目指す看護師が集まりました。

また、このACUの特筆すべき点は、志を同じくする看護師達が集まり、この自発的な集団が核となって大動脈疾患治療に関わる各職種を牽引し、病院全体の中にACUシステムを植えつけ、開花させる中心的な力になったと医師達からも評価頂いている事です。私達はこの事を非常に誇らしく思っています。

ACU開設までの具体的な活動としては、ACUをどのような形で運営していくのか？システム、教育、それからベッドの配置、機器の配置とスタッフの動線は？…など、大動脈センター医師らも交え、半年に渡り深夜まで論議につづ論議を重ねてきました。時には時間が足りずに院内から、深夜の

居酒屋に移動して話を続けた事も何度ありました。お蔭様で本年4月開設にこぎつけて以降、7月の改装工事を経て病床数20床の「ACU」が完成しようとしています。現在看護師14名（2交代）で週6例の大動脈定時手術と緊急手術に対応していますが、この

ような設立経緯から、スタッフ各自が問題意識を持ち、自由に意見を言い合える、素晴らしく理想的な職場が出来上がったと自負しています。当面の私達の目標は「医師も素晴らしいが看護師さんも素晴らしいからこの病院を選んだ」と患者さんから言うてもらうことです。そしてその先に私が描いている夢はこんなことです。

川崎幸病院・大動脈センターは年間200件の胸部大動脈手術を行い、日本国内だけで

なく既に世界でもトップクラスの手術数だと聞いています。そして、そのセンターを背景とした「ACU」について、これは世界初の試みであり、国内にも大動脈疾患を専門に看護するユニットはないと聞いています（ちなみにACUは私達の造語です）。センターが世界一なら、私達のACUも、国内はもとより、世界に向けて私達の看護を発信して行こうではないか。そんな意気込みで毎日をがんばっています。

★トピックス①

横浜サイバーナイフセンター 1,000例の治療

新緑会脳神経外科 院長 佐藤 健吾

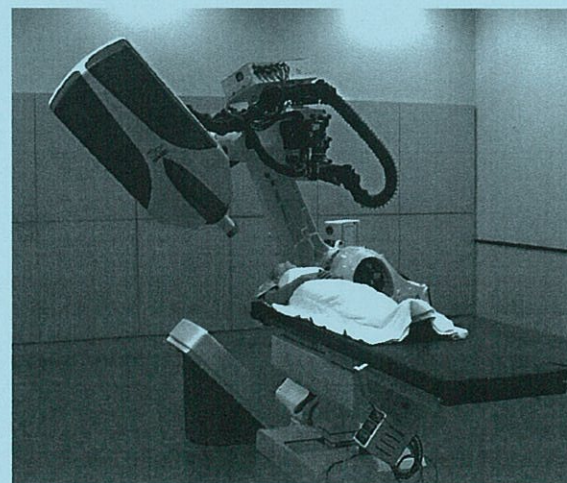
2005年5月9日に横浜サイバーナイフセンターとして治療を開始し、2007年5月22日に1,000例の患者さんの治療になりました。最初、月10例の患者さんの治療からスタートをしたことを考えると、この時期に1,000例に到達できたことは感無量です。神奈川県は人口が多いから、患者さんも多いだろうと安易な考えで岡山の田舎から出て来ましたが、サイバーナイフの認知度の低さに驚き、診療所に居座ってはい患者さんの紹介はないと思い、病院周り、学会での発表を繰り返しました。難しい症例については、紹介医と電話で何回も相談をし、患者さんにも安心して信頼されて治療ができる環境を整えました。

現在、新緑会脳神経外科、横浜サイバーナイフセンターでの運営理念を考えていますが、第一が患者さんからの信頼が得られ、患者さん満足度の高い診療所を目指すことと考えています。次が周囲の先生方との連携だと思います。我々の施設はご紹介なくしては生きていけない小さなクリニックです。きめの細かい経過観察、有害事象のチェック

があってはじめて信頼される治療を行えます。三つ目が、働くスタッフの満足度、生き甲斐だと思います。働いて楽しい職場環境が、患者さんへの笑顔での対応につながると思っております。

こんなことを書くと、前任地で大嫌いだった管理職みたいですが、院長職を拝命して、その大変さを痛感しております。私を含めて、現場での地道な努力なくしては今後生き残っていけないと思っております。

次なる目標は、アジア全体のトレーニングセンターになる事です。



★トピックス②

和田秀樹先生、映画監督デビュー！

■川崎幸クリニック精神科医の和田秀樹先生、初メガホン作品「受験のシンデレラ」が来春公開

和田秀樹先生。改めて紹介するまでもなく、精神科医として、老年精神医学、精神分析学の研究者として名高い一方、教育、心理学、高齢社会に至る幅広い分野で続々と著作を発表、そのほとんどがベストセラーにランクインされる売れっ子である。また、鋭い分析力を見せるコメンテーターとしてテレビでもおなじみである。その和田先生、今度は映画監督としてメガホンをとり、その作品が来春公開されるという。撮影現場には、さやま総合クリニックが登場する。編集部では和田先生のこの超マルチな活躍の秘密と公開される映画について本人から聞き出した、和田先生が精神科医として診療する川崎幸クリニックをたずね取材した。(編集部)

中高一貫の進学校に入学したもののあっという間に成績は落ち、目標を持てなくなっていた高校時代、「赤い鳥逃げた？」(藤田敏八監督)に出会い、衝撃を受けました。以来、自分の中にある何かを表現するにはこれだ、という思いがずっとあったんです。とはいえ、映画を撮るには金がかかる。ならば医者になって収入を確保すれば映画が撮れるではないか、そう考え、独自の勉強法を編み出し、医学部(東京大学医学部)に入学したわけです。在学中も借金を作ったりしながらも自主映画を手がけてたんですが、まあ、残念ながら医者になりましてね。(編集部注:「残念ながら」といいつつ、インタビューの中では医師としての使命感が随所に感じられた)ただ、その頃の出会いがその後の自分や今回の映画作りに本当に役立ってるんですね。医者になってからは、社会的に必要とされる仕事に就いたわけですから、自分しかやれない分野、老年医学などの分野をまじめに研究してきました。その後、自分の経験を生かした受験・勉強法の本を出したわけですが、その頃にはもう具体的な映画の構想を持っていました。映画監督というのは作家のようなもので、それまでの経験、私の場合は医者や物書きとしての経験、は絶対に映画制作に生きる、むしろ若い頃から映画監督になってしまうよりもある意味良いのかもしれないと思っています。今、映画の世界はメジャーな映画ばかりが見られる状況なんです、何か自分の表現、

社会に対するメッセージを込めた映画を作りたいんですね。

今回の映画「受験のシンデレラ」もそうした想いを込めてるんです。受験

関連本を書いている頃から言ってるんですけど、「生き方を変えれば人生が変わる」、「勉強が出来ないのは頭が悪いからではなく、やり方が悪いからだ、あきらめる前にやり方を変えなさい」、と。そして今の「格差社会」に対する闘いというか、金持ちの子供じゃなければ東大に行けない、みたいな風潮に対して、そうじゃないんだ、諦めちゃダメだよ、というメッセージ。それから世の中の人に緩和医療について分かってもらいたい、という想いも。撮りたい映画のテーマはまだまだあるんです。せっかく医師として仕事をしているわけだから、他の監督には撮れないような作品を撮りたいと思っています。テーマはたくさんあるんです。

◆「受験のシンデレラ」和田先生初監督作品で来週公開予定。高校中退の貧しい少女が、余命宣告を受けたカリスマ塾経営者に出会い、東大受験を目指すまでを描く。「目指したのは、受験版『あしたのジョー』」とのこと。寺島咲、豊原功補、浅田美代子など出演。



映画には「あきらめちゃダメだよ」というメッセージを：和田医師

★トピックス③

巡回健診車による職員健診 職員にも好評

狭山地区事業所～
狭山病院 事務部副部長 田村 昌子

昨年度までの定期健康診断は、病院とクリニックの施設を使い2週間かけて実施をしていましたが、狭山地区事業所の職員数も700名を超え、病院及びクリニックでの実施が難しくなりました。そのような状況の中、今年度は川崎健診クリニックの巡回健診車による健康診断を実施しました。当日はトレーニングされた健診スタッフが効率よく検査をすすめ、健診時間も平均1時間と大幅短縮されました。実施前には、健診期間が1週間ということもあり、受診率低下を心配しましたが、終わってみれば職種を

問わずほぼ100%で終了。結果報告書もちょうど1ヶ月後に職員個人宛に通知され、スピーディーかつ丁寧な対応は職員にも好評でした。

今後は、再検査・精密検査・治療と判定された職員に対して、労災保険の二次健康診断等を利用して、フォローをしていく予定です。



《読書のすすめ》

P・F・ドラッカー著/訳 上田惇生
ダイヤモンド社 2007年01月発売
税込：1,890円

「非営利組織の経営」(新訳)

理事長 石井 暎禧

ピーター・ドラッカーは、戦後日本の企業経営者に、もっとも影響を与えた経営学者です。彼の経営に関する著作を見ると、経営を営利企業における問題としてだけでなく、非営利組織における経営問題も射程に入れて考えられています。それは初期の著作である「現代の経営」で「事業の性格が論じられる場合、一般には利益や収益性が真先に取り上げられるが、これは正しいとは言えない、利益は事業活動の原因ではなく、結果であるからである」と語ったように、彼は利益を目的でなく結果ととらえることにより、営利企業・非営利組織を貫く、経営理論を生み出すことに成功しているからです。

この本は「非営利組織」を主題にして経営問題を論じている点がユニークです。まえがきに「50年代には、非営利組織にとってマネージメントという言葉はよい言葉ではなかった。当時は、あらゆる非営利組織がマネージメントを必要なしとした。そもそも非営利組織には収支なるものが

なかった」と書かれているように、米国においても、日本のかつての公立病院と同じような考えが支配していたのです。「病院が赤字であるのは名誉なことだ」と、ある先輩医師が語っていたのを思い出します。

日本における病院は非営利組織であると同時に企業でなければならぬため、彼の次の言葉はいっそう重みを持ちます。「非営利組織はそれぞれに特有のミッションを追求するためにだけ、資金が必要なわけではない。あらゆる非営利組織に共通するミッションとして、人に自己実現の機会を与え、理念と信条と理想に生きる機会を与えるためにも、資金が必要である」。

我々にとって、利益は、このような資金であると同時に、ミッションの成果の指標として重要です。

今回、訳者は同じであるが、非常に平明な翻訳書が再発行されたので一読を進めたい。

《趣味探訪》

狭山病院 ～野球狂の詩～

狭山病院 副院長兼整形外科部長 野本 栄

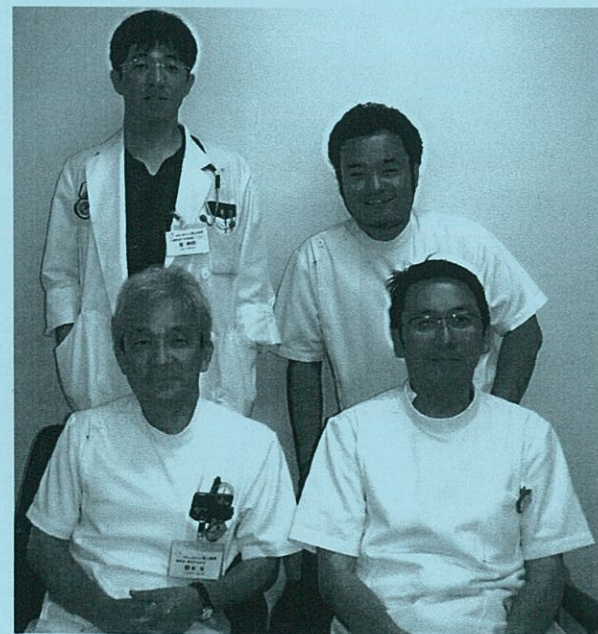
永らく野球人気低迷し、野球好きの私としては少し寂しい想いでしたが、ここにきて“ハンカチ王子”斎藤佑樹投手(早稲田実業→早稲田大学)が熱狂的な女性ファンを獲得、続いてイチローがメジャーリーグオールスター史上初のランニングホームランとMVPという快挙を成し遂げるなど、野球をめぐるホットな話題が続いています。私としても何やら溜飲が下がる思いです。

プロ野球の話題から転じて恐縮ですが、実は我が狭山病院にもれっきとした野球チームがあります。その名も「狭山Ambulance(救急車)」。

結成3年目ではありますが元甲子園球児を要する“強豪?”チームです。

監督である私の野球暦は30年以上前の新潟大学準硬式野球部に始まります。大学の入学式の時、医学部の野球なら素人でもやれるのではないかと思い入部、入ってみるとなかなかどうしてかなりのレベル、後に宍戸先生(川崎クリニック院長)も入部されました。

当時は医学部対抗の遠征試合もこなしたものです。ただ、この仕事に就いてからは本格的に野球に打ち込む機会も時間もありませんでした。ところが、3年ほど前、院内スタッフから、狭山病院にはあの池田高校で甲子園に出場しヒットを打った職員がいるとの話を聞きつけ、再び野球への想いに火がつき、さっそくチーム結成へと動いたわけです。



「狭山Ambulance」メンバー
前列：左/野本副院長(監督)、右/斎藤医師(ピッチャー)、
後列：左/垣医師(野手)、右/小澤CE(野手)

監督は最年長者ということで私が引き受けましたが、実は最初の仕事はメンバー集めから。ところがあにはからんや、院内で声をかけ始めると、野球経験者や野球好きがここかしこに。ほどなく25名のメンバーが揃いました。診療部にも、高校、大学野球の経験者がいて重要な戦力となっています。エースは放射線医の斎藤拓君です。それに加えて透析の患者さんの中に高校野球でピッチャーをやっていた方がいて、1回限定ですが強力なストッパーとして活躍しています。

われわれの対戦の相手は、目下狭山地区の、われわれ同様企業などの草野球チームです。強い順にA,B,Cに分かれています。Cクラスにもすごいピッチャーがいてなかなかどうしてあなどれません。

さてわがチームですが、なんといっても悩みの種は、職業柄、練習の人数が集まらないこと。実を言えば試合当日もはたしてメンバーが集まるかどうかが一番の心配です。特に心臓血管外科の緊急手術が入ると、レギュラーの遊撃手、キャッチャーが欠場。そのほか放射線部門などの選手も日直などでこれまた参加できず。まあ、試合については結果より試合が始められるかどうかの問題と言うわけです。

それに加えて大事なことは練習中や試合中に怪我をしないこと。怪我をしては翌日からの仕事に差し支えます。それやこれやで実力を持ちながら(?)強さを発揮できないというジレンマを抱えております。というわけで成績は1年目が0勝、2年目が2勝、3年目の今年は今のところ1勝です。負けの数? 内緒です。もちろん、公式戦では勝つことを目標にしていますし、勝てば大きな喜びに浸れます。とはいえ、負けることはそれほど気にしません。草野球を楽しむ秘訣は、勝負にこだわりつつも、ある程度だめだと思ったら、みんなで楽しむ、ということです。そういう意味では、参加してくれるメンバー全員が試合に参加できる、ということも大事です。

野球に限らずスポーツをみんなで行うのはとても良いことです。今まで顔は知っていても名前のわからなかった皆さんとも知り合いになれるし、年齢の高い私たちと若いスタッフとが一体となって野球に打ち込めます。試合後のビールの味も格別です。新年会、納涼会、忘年会と飲み会も試合数と同じぐらいあります。お互いを知り合う意味でも、ストレスを発散する意味でも重要な飲み会です。

つぎに、今後の目標ですが、まず狭山Cリーグで2回戦を勝抜くこと。そして、若いメンバーにどんどん加入してもらうこと、それに石心会の他のチームともっとたくさんの試合をすること、等々。ただ、何より野球部をずっと存続させることが大切と考えています。

読者の皆さんにメンバー紹介をと、写真を撮りましたが急だったため4名となりました(写真に写っていない部員の皆さん怒らないで下さいね)。



ミュージック・サロン



■さやま総合クリニック ヘルシーコンサート♪

毎月一回(第一土曜日:会場3階ピアノホール)開催のヘルシーコンサートのレポートです。ハープ(第6回)、コントラバス(第7回)、2本のサクソ(第8回)をフューチャーした普段ではなかなか聴く機会のない編成です。聴衆の皆さんもそれぞれの楽器が持つ音色の深さを堪能した様子でした。

【第6回】

- 日 時: 4月14日(土)『ハープ、フルート、メゾ・ソプラノの夕べ』
- 出 演: 成田しのぶ(ハープ)、古川仁美(フルート)、秋山さやか(歌、編曲)
- 曲 目: アヴェマリア、精霊の踊り、メヌエット、夜来香、グリーンスリーブス 他
- ※演奏家プロフィール 成田しのぶ: 東京芸術大学大学院修士課程修了。「さいたまハープ・クラブ」などを主宰。
古川仁美: 東京芸術大学卒業後、英国、アメリカほか国内外で活躍。ミュージックスクールDaCapo講師。
秋山さやか: 東京芸術大学卒業、米国イーストマン音楽学校修士課程修了。現在、編曲、演奏活動を続ける他、埼玉県立芸術総合高校音楽科ほか非常勤講師。

【第7回】

- 日 時: 5月12日(土)『ブリリアント・デュオ』
- 出 演: 小寺雅久(コントラバス)、赤木舞(ピアノ)
- 曲 目: アダージョ、愛のあいさつ、マドリガル、エレジー 他
- ※演奏家プロフィール 小寺雅久: 桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。全日本演奏家協会、国際芸術連盟推薦コンサートなど各地のコンサートに多数出演。赤木舞: イーストマン音楽学校ピアノ専攻卒業、同大学院修士課程修了。ニューヨーク国連本部にて日米親善演奏を行うなど欧米での演奏会に多数出演。現在、東京芸術大学大学院応用音楽学専攻、博士課程に在学中。

【第8回】

- 日 時: 6月9日(土)『サクソの夕べ』
- 出 演: 島田和音(サクソ)、完戸吉由希(サクソ)、赤木舞(ピアノ)
- 曲 目: タイムトゥセイグッバイ、夏の思い出、さとうきび畑 他
- ※演奏家プロフィール 島田和音: 昭和音楽大学卒業、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。現在、サクソフォン、演奏家の指導及び作曲編集等を手がける。音楽集団「Loops」主宰。完戸吉由希: 昭和音楽大学卒業、在学中は昭和音楽大学コンチェルト定期演奏会にて同大学オーケストラと、日演連盟推薦新人演奏会にて仙台フィルハーモニー管弦楽団と協演。現在、同大学大学院に在学中。



☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師(現狭山病院長)が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニストコンディ・リが練習用に愛用したものです。

★トピックス④

【川崎幸病院】

- 4月1日 消化器病センター開設(前号特集参照)
- 4月1日 大動脈センターACU(Aortic Care Unite:大動脈疾患治療室)開設(本号特集参照)
- 4月4日 川崎幸病院・川崎幸クリニック合同新入職員オリエンテーション
- 5月12日 看護部ケースレポート発表会
- 5月30日 資格取得者お祝い会
- 6月22日 新入職員歓迎ボーリング大会
- 6月30日 各部/各科H18年度実績・H19年度目標発表会
- 定例救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
 - ・4月16,17日 『慢性腎不全患者さんのライフライン・内シャント』
(講師:副院長兼透析科部長/井上純雄) 参加者計14名
 - ・5月22,23日 『消化管出血について』(講師:消化器内科医長/大前芳男) 参加者計8名
 - ・6月22,29日 『緊急手術を必要とする消化管疾患』(講師:外科医長/河原祐一) 参加者計23名
- 地域講演
 - ・6月8日 幸ロータリークラブ卓話『心肺蘇生とAEDの使用方法』(講師:救急部医長/三村琢也)
- NST委員会主催勉強会
 - ・4月25日 『栄養アセスメント蛋白について』
 - ・5月23日,6月27日 『栄養管理におけるチーム医療～NSTの成果』

【狭山病院】

- 4月2日 画像システム入替及びフィルムレス化
- 4月4日 狭山地区事業所新入職員オリエンテーション 参加者59名
- 4月23~24日 平成19年度チャレンジシート発表会
- 4月28日 本館病室改修工事終了
- 5月10日 ふれあい看護体験
- 5月15日 日本病院会 患者の病院選択動向調査実施 回収率89.6%
- 5月17日 嗜好調査実施(入院患者対象) 回収率79.7%
- 5月20日 新入職員歓迎バーベキュー大会 参加者276名
- 5月24日 埼玉県栄養関係功労者知事表彰で優良施設として表彰
- 6月22日 ICT活動開始
- 6月23日 地域ケアセンター引越し
- 6月25日 栄養室改修工事終了
- 院内勉強会
 - ・5月21日 看護部ケースレポート発表会(演題数18題) 参加者77名
 - ・5月25日 『褥瘡について学ぶ』 参加者86名
 - ・6月26日 『医療安全の基礎』 参加者55名
- 地域医療連携・公開カンファレンス
 - ・4月20日 『Intervention Cardiology～心カテ室での心臓治療について～』
(講師:循環器科部長/山根正久) 参加者60名

- ・ 5月10日 『サイバーナイフ治療～7年間の経験より～』
(講師:新緑会脳神経外科院長/佐藤健吾) 参加者98名
- ・ 6月23日 『ガイドラインを用いた最新の喘息治療』
(講師:呼吸器内科部長/青島正大) 参加者65名
- ・ 6月29日 『当院整形外科の現状と展望～大腿骨頸部骨折地域連携パスを導入して～』
(講師:整形外科副部長/伊東秀治) 参加者92名

【川崎幸クリニック】

- 気功教室 講師 臨床心理士 稲富正治
 - ・ 4/18 参加5名
 - ・ 5/16,23 参加計7名
 - ・ 6/20,27 参加計10名
- 食事の教室 管理栄養士
 - ・ 4/18 『骨粗鬆症予防の食事』 参加者11名
 - ・ 5/16 『生活習慣病予防の食事①(講義)』～メタボリックシンドロームにならないために～ 参加者20名
 - ・ 6/21 『生活習慣病予防の食事②(調理実習)』～メタボリックシンドロームにならないために～ 参加者19名
- 糖尿病講座
 - ・ 6/6 (講師:内科医師/安島美保、管理栄養士、理学療法士、看護師) 参加者12名
- 転倒予防教室
 - ・ 4/5
 - ・ 5/10
 - ・ 6/7 参加者計36名
 (講師:整形外科非常勤医師/持田、看護科長/門間、理学療法士/増田・川村、栄養士/清水)
- 公開講座
 - ・ 4/11
 - ・ 5/9
 - ・ 6/7 参加者計68名 (講師:検査技師, 放射線技師)

【さやま総合クリニック】

- 外来糖尿病教室 ※各回4日で1講座です。
 - ・ 4/5 『糖尿病とは』 (講師:内科副部長/三好洋二) 参加者10名
 - ・ 5/10 『薬物療法』『足の手入れ・検査について』 (講師:薬剤師, 看護師) 参加者10名
- 5月14～15日 嗜好調査実施(透析患者対象) 回収率67.2%
- 健康教室
 - ・ 4/14 『メタボリックシンドロームについて』(講師:内科副部長/三好洋二) 参加者20名

【川崎クリニック】

- 6月15～17日 日本透析医学会 大阪国際会議場他 参加者:8名

【アルファメディック・クリニック】

- 4月25日 日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価訪問調査受審

【川崎健診クリニック】

- 6月10日 日本総合健診医学会 特定健診・特定保健指導説明会 参加者2名

【新緑会脳神経外科】

- 5月22日 開院以来のサイバーナイフ治療累計1,000症例達成(本号特集参照)

【新緑会立川若葉町脳神経外科】

- 5月6日 外来第3診察室増設工事完了